

# 学位プログラムの体系化

チューニングと学習成果調査によるグローバル質保証

京都大学 地域連携教育研究推進ユニット 主催

平成25年12月12日(木) 13:30~17:00  
京都大学楽友会館(京都市左京区吉田二本松町)

逐次通訳つき 定員70人 参加無料

学生の国境を越えた大学間移動が拡大するなかで、大学は研究だけでなく教育についても、その「質」について、分かりやすく説明する責任を問われるようになっていきます。大学は、期待される能力を学生に身につけさせることに成功しているのでしょうか。能力獲得にむけて体系的に構築された学位プログラムを提供できているのでしょうか。目標とする能力が獲得されたかどうかを適切に評価し、教育改善に役立てていくことができているのでしょうか。

大学教育の質保証は、欧州でも米国でも、大学改革の焦点として注目されています。たとえば、欧州では欧州高等教育圏の確立をめざすボローニャ・プロセスを実質化させる大学主導の取り組みとして、「チューニング」が2000年より手がけられてきました。チューニングとは、大学の多様性や自律性を尊重しながら、大学間で「共有」する能力枠組を定義する方法と、その能力枠組に即した「学位プログラム」を構築する方法を示すものであり、それらの方法を採用した大学の取り組みを指します。

また米国では、1990年代末ごろからの学習成果にもとづく大学教育の質保証要求の高まりを受けて、学習成果調査を実施する大学が拡大してきました。それに伴って、学習成果調査を教育改善に役立てる方法に関する研究も発展してきました。近年では、大学団体や財団が中心となって、大学間で共有する能力枠組の開発も進められています。

この講演会では、欧州チューニングおよび米国学位資格プロフィール(Degree Qualifications Profile)の研究開発と実践を先導してこられた専門家をお招きして、最新の動向についてお話しいただきます。グローバル時代における学位プログラムの体系化、および大学教育の質保証のあり方について検討を深めることをめざします。



Dr. Robert Wagenaar



Dr. Peter Ewell

司会 高見茂（京都大学理事補（教育担当）；国際高等教育院教授・地域連携教育研究推進ユニット長）

13:30～ 開会挨拶

淡路敏之（京都大学理事・副学長（教育担当））

13:40～ **"The role of Profiles, Competences and Learning Outcomes in Program Design and Delivery: the Tuning Approach"**

（「チューニングにおける学位プログラムの設計と実践における  
プロフィール・コンピテンス・学習成果の役割」）

Robert Wagenaar（Director of Undergraduate and Graduate Studies,  
Groningen University; Director, Groningen International Tuning  
Academy）

14:40～ **"Information to Improve Undergraduate Teaching and Learning: Some Examples from the U.S."**

（「学士課程における教育・学習の改善に資する情報—米国の事例より」）

Peter Ewell (Vice President, National Center for Higher Education  
Management Systems)

休憩

15:50～ ディスカッション

Robert Wagenaar

Peter Ewell

ディスカッサント：松下佳代（京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授）

コーディネーター：深堀聰子（国立教育政策研究所 総括研究官）

16:50～ 閉会挨拶

惣脇宏（京都大学大学院総合生存学館 思修館 教授；総長首席学事補佐）

## お問い合わせ先

京都大学地域連携教育研究推進ユニット：075（753）3097（教育学研究科 教育行政学研究室）  
shiba.takafumi.78v@st.kyoto-u.ac.jp

担当：柴



※本講演会の講師招聘は、国立教育政策研究所の協力によって実現しました。

